



立命館創始140年・学園創立110周年記念

「若手研究者企画」  
アート・リサーチセンター  
連続講演会2  
The Art Research Center Lecture Series  
: A Young Researchers' Project

# 書齋から棧敷へ

## —『東海道四谷怪談』のテキストとパフォーマンス

*Tōkaidō Yotsuya kaidan on Stage and Page*



日時 2010年7月22日(木) 18:00-19:30

場所 立命館大学  
アート・リサーチセンター 多目的ルーム

講師 嶋崎 聡子  
(Assistant Professor, University of Colorado at Boulder)

本講演では、鶴屋南北作『東海道四谷怪談』を題材にとりあげ、もともと舞台上の芸術のその上演のために存在した台帳が、20世紀初頭に読み物としてテキスト化されてゆく過程とその言説に注目し、本という媒体を通じて『四谷怪談』の解釈が変遷してゆくことを指摘する。また、以上の論がアメリカにおける日本演劇研究のフレームワークを基盤として書かれたことをふまえ、日本国内における研究成果との視点の相違を述べることによって、欧米における日本演劇研究の位置づけを明らかにする。その背景となる大学のカリキュラムの特色や、アメリカの日本学研究に何が必要とされてきたのかを、実際の教育現場における事例を紹介しながら考えていく。

### 講師プロフィール

2009年にコロンビア大学東アジア言語文化学部より日本文学の博士号取得。

現在はコロラド大学ボルダー校、アジア言語文化学部にて日本演劇と文学を教える。研究分野は鶴屋南北と歌舞伎、江戸戯作、出版と視角文化、テキストとパフォーマンス理論など。



主催 文部科学省グローバルCOEプログラム  
「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」  
(立命館大学)  
企画 「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」  
ポスドクフェロー

問合せ先 立命館大学アート・リサーチセンター事務局  
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
TEL 075-466-3411(平日9時~17時30分)  
arc-jimu@arc.ritsumei.ac.jp

